東海支部

6月20日、「名古屋マリオットアソシアホテル」にて、東海支部総会・懇親会が開かれました。青山学院大学コミュニティ人間科学部教授西山利佳先生、青山学院大学特任教授趙慶姫先生、山川仁美同窓会副会長をお迎えし、総勢31名の参加となりました。

西山先生のご講演『東海地方ゆかりの女性児童文学作家の仕事～山本悦子を中心に～』では、中部地方にゆかりのある11人の女性児童文学作家たちの仕事と生き方を描いた林美千代の『書斎はキッチン　児童文学に魅せられた作家たち』山本悦子の『夜間中学へようこそ』『アリゲーターガーは、月を見る』の紹介があり、多くの女性作家が家事や育児をしながら食卓で作品を書いていたということ、外国籍の子どもたちをテーマにした作品が増えているということ、多文化共生について、大変興味深いお話でした。



山川副会長、岩田みつ子東海支部長からは、短大同窓会の現状についてお話がありました。続いて愛知・三重県部会、岐阜県部会、静岡県部会の活動報告・会計報告をもって総会は無事終了いたしました。

総会終了後は、ライアー演奏を楽しみました。ライアーの弦は42本とのことですが、その美しく幻想的な音色に心が洗われる思いがしました。日頃忙しく過ごしている私たちにとって、癒しの時間となりました。《アメージング・グレイス》ジブリ映画《ハウルの動く城～世界の約束》などを演奏していただきましたが、時間が許せばもっと聞いていたいと思いました。このライアー演奏を楽しみに、総会に初めて参加した方がいたのも嬉しいことです。



演奏後は、美味しいフランス料理をいただきながら歓談の時間となりました。今回はフリードリンク付きということで、お食事に合わせてワインを楽しまれた方も多くいらっしゃいました。恒例のスピーチで、大先輩の松本伸子さん(28E)が、戦前・戦中・戦後生きてきて今とても幸せだと、お話しされました。マイクを持って穏やかにお話しされる姿に、このように年を重ねたいものだと思いました。最後に集合写真を撮り、来年の岐阜県での再会を約束し、散会となりました。

63J　山崎　純子(齊藤)

関西支部

紫陽花の美しい6月6日、第46回関西支部総会が初めて兵庫県で開催されました。神戸トアロード沿い、坂を上った地にある古い洋館の中国料理店「東天閣」において、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授輪島達郎先生、青山学院大学特任教授趙慶姫先生、山川仁美同窓会副会長をお迎えし、26名が賑やかに集いました。

始まりは、長瀬智子さん(48E)による祈祷でした。聖書ピリピ人への手紙の一節と日本の禅語「足るを知る」の教えは東西文化で共通する人生の理を示すという深いお話。学生時代には見えなかったものが、年齢を重ねるとふとした折に腑に落ちたと感じる場面がありませんか。今回のお話は、今まさに心に響く、そんな瞬間でした。

議事の後、輪島先生による乾杯で会食が始まりました。素材を厳選した目にも美しい王宮料理と共に、目の前で甕からグラスに注がれるまろやかな紹興酒をいただく至福の時間でした。私は今回が初参加でしたが、テーブルには結婚を機に兵庫県に住んだ同年代の方がそろい、初対面とは思えないほど話が弾みました。

続いて、「短大コレクション・その後―美術品の図書館設置、教育標本資料のギャラリー展示」と題し、趙先生によるご講演が始まりました。優れた美術作品を学内に置き学生たちが常に身近に触れることができるように、との方針は、幸田三郎学長から島崎通夫学長へと継承され、芸術学科の創設と共にさらにコレクションは充実していったとのこと。短大閉学後、その所蔵品は大学各所、スクーンメーカー記念館(旧短大図書館)等へ寄贈、展示され、生き続けているという現在を知ることができました。短大の足跡、思い出をギャラリー展示として残すことにご尽力くださった皆さまの熱い想い、ご努力に敬服いたしました。



神戸三宮駅前にも、掛井五郎先生の彫刻がそっと微笑んでいます。私たちの生活の中で「美術作品」が語りかけてくれる力、意義を再認識いたしました。

秋の親睦会は10月初旬、大阪城港から水上バスに乗り、淀屋橋、中之島公会堂を巡る55分の周遊の後、ホテルでのランチを楽しむ1日を計画しております。皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

55C　秋吉美穂子(大関)